

平成 23 年度 第2回静岡市食の安全・安心意見交換会

議題 「静岡市 食の安全・安心アクションプラン

平成 24 年度～平成 26 年度」の策定について

プログラム	…………… 2 ページ
平成 23 年度意見交換会委員名簿	…………… 3 ページ
今回の意見交換会のポイント	…………… 4 ページ
意見交換会委員への調査票	…………… 5 ページ

別添資料

「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成 24 年度～平成 26 年度」（案）

平成 23 年度 食の安全・安心意見交換会プログラム

日時 : 平成 24 年 2 月 9 日 (木)

会場 : 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階 第 1 研修室

開始時刻	時間	項 目	内 容	進 行 等
13:45	15分	受 付	傍聴者の受付	事務局
14:00	10分	開 会	開 会	事務局
			あいさつ	保健衛生部長
	5分	10人の委員を紹介する。 座長の選任（座長の指名）		部長、事務局 （座長）
14:15	45分	意見交換 「静岡市食の安全・安心アクションプラン 平成 24 年度～平成 26 年度」 の策定について		説明：事務局 意見：委員 （座長）
15:00	10分	休 憩		
15:10	45分	意見交換 「静岡市食の安全・安心アクションプラン 平成 24 年度～平成 26 年度」 の策定について		意見：委員 （座長）
15:55	5分	お知らせ等		事務局
16:00		閉 会		

平成 23 年度静岡市食の安全・安心意見交換会委員

		☆…新規委嘱者
No.	名前（敬称略）	所属及び役職
1	フシミ ヨシオ 伏見 良雄	しずおか市消費者協会会長
2	コスゲ ヨリコ 小菅 ヨリ子	静岡市食生活改善推進協議会会長
3	ミミツカ ヒサヒロ 耳塚 久広	生活協同組合コープしずおか 組合員活動部
4	アカホリ ミヨジ 赤堀 三代治☆	JA 静岡経済連非常勤コンサルタント ARMS 代表
5	オオツカ マサミ 大塚 晶美	静岡県農山漁村ときめき女性
6	ウンノ マサヒト 海野 雅人☆	静岡市水産物商業協同組合
7	フカザワ トシジ 深沢 利司	ヤヨイ食品株式会社 品質管理部 清水工場分室長
8	イチカワ ヨウコ 市川 陽子	静岡県立大学 食品栄養科学部 准教授
9	ミヅ ノリナガ 三輪 憲永	東海大学短期大学部 食物栄養学科 教授
10	ウンノ トシヤ 海野 俊也	株式会社静岡新聞社 編集局 経済部 部長

今回の意見交換会のポイント

「静岡市食の安全・安心アクションプラン」は、静岡市が「食の安全の確保」と「食の安心の提供」のために取り組む事業をまとめて市民の皆様を示した行動計画です。

3年間の行動計画として平成20年度に策定した「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成21年度～平成23年度」の計画期間も今年度で満了となります。

しかし、昨今の食品の安全をめぐる状況を鑑みるに、これまで以上に市民の目に見える形で食の安全・安心に関する施策を充実させることが求められています。

そこで、次年度よりの静岡市の食品行政の行動計画として、「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成24年度～平成26年度」を策定することとなりました。

新プランの策定に際して、9月からは静岡市では初めてとなるインターネット上での意見交換会を開催し、意見交換会委員、さらに一般の市民の方々から貴重な御意見をいただきました。

今回は、ネット上での議論を参考にまとめた最終案について、委員の方からの再度の意見交換と承認をいただきたく、対面式での意見交換会を企画しました。

今後の静岡市における食の安全・安心に向けた施策の充実のため、有意義な意見交換会となるようご協力をお願いいたします。

意見交換会委員への調査票

◆◇伏見 良雄 委員

- 1 放射性物質の食品への影響は長期にわたる心配事である。
現状の検査体制が不明だが、しっかりとした検査体制の確立とタイムリーな情報伝達の仕組みが必要。
- 1 意見交換会はいろいろあるが、消費者、生産者、事業者の交換会がほしい。

◆◇小菅 ヨリ子 委員

以下についてお尋ねします。

①Ⅰ－２（２）

・学校給食の食材の安全確保について、「使用食材の定期点検を実施する」とありますが、具体的に、どの位の頻度で、何について検査するのでしょうか？また、放射性物質の食品への影響調査と関係がありますか？

②Ⅰ－３（１）

・放射性物質の食品への影響調査について、Web上での11／1の食品衛生課の回答に、現在「市としての放射線測定機器の整備体制の構築について協議している。」とあり、検査計画は未定とありましたが、その後どうになりましたか？今回、「新たに設定された基準値に基づいた検査を状況に応じて実施します。」とありますが、検査体制が整ったということでしょうか？

③Ⅱ－２（２）

食品衛生協会及び食品衛生組合加盟事業者とありますが、協会や組合に加盟するのは任意なのでしょうか？

加盟していないと情報等が伝わらないと思いますが、加盟を義務づけることはできないのでしょうか？

◆◇耳塚 久広 委員

1. P 3 「静岡市食の安全・安心アクションプランとは？」の説明文中にあるように、広く「市民の皆様を示した行動計画」という位置づけから、いくつか意見します。
 - ① P 7 他の「収去検査」の言葉の意味がわかりづらいので、「(食品衛生法にもとづく)食品の抜き取り検査」といった注釈を入れた方がいいのではないかと思います。
 - ② P 8 の「H A C C P」の注釈も必要かと思えます。
 - ③ P 1 1 「スクリーニング試験」の注釈も必要。
2. 各取り組み事項に基準値と目標値を設定するのは具体的でいいと思います。ただし、到達点評価がないと、めざすあるべき姿・状態から照らして目標値が妥当な数値なのかわかりづらいと感じます。実施回数を増やすもの、変わらない、減らすものそれぞれ理由が見えたとわかりやすいです。
3. 放射性物質の食品への影響調査について、評価できます。一方、放射線物質に対する過度な反応や逆に無関心もあるように見受けられます。市民自身が、放射性物質に対する科学的知見を高め、「正しく恐れる」啓蒙活動も必要かと思えます。

◆◇赤堀 三代治 委員

平成 23 年 10 月期開催の H P 掲示板利用の意見交換会時に意見を述べさせていただいてありますが、再度、下記事項に関して確認をさせていただきます。

I. アクションプランの進行管理について

<関係者がよりわかる形式での管理 提案>

見える化、視覚化を意識しただれでもわかりやすい形式での進行管理結果の整理と提示をぜひお願いします。(他の行政機関の形式も参考にしてください。)

II. アクションプラン

食の安全確保のための施策

5. 食の安全に関する教育・啓発を推進します の項目

< I T のさらなる活用 提案>

私は、静岡市における食の安全・安心アクションプランを推進して行く上で、「リスクミココミュニケーション」をどう根付かせていくのかが、大きなポイントになると考えております。

食品安全基本法で制定されている消費者・事業者・生産者・行政がそれぞれの機能

を的確に発揮していくためには、情報の共有化をベースにしたより円滑なコミュニケーションの展開が不可欠です。そのために新たな視点を取り入れた取組が必要であるとの認識を、掲示板利用の意見交換会のなかで、耳塚委員・市川委員・海野委員も示されています。

展開手法のひとつとして、**I Tの積極的活用**があげられます。静岡市においてもHP「たべしずねっと」が用意されていますが。アクセス件数年間13万（平成22年度実績）は、やはり寂しい数字と言わざるを得ません。

より多くの消費者・事業者・生産者との情報の共有化をより促進させるために、どのようにしたらよいか。と考えた時、私の頭に浮かぶひとつの手法は、**I Tの積極的活用**です。たべしずネットのHPにアクセスしてくる人は、意識の高いほんの一握りの人ではないでしょうか。より多くの市民と食の安全・安心に関わる情報を共有化していくためにはどうしたらよいか。提示されたアクションプラン（案）では、こうした意識はほとんど感じられません。

メールマガジンの発行、さらに言えば、ツイッター・フェイスブックの活用も含めた検討をして頂きたいと思います。

こうしたツールを積極的に活用している広島市のような行政機関もあります。研究してください。

私はスマートフォンを、仕事・プライベート両面で積極的に利用しておりますが、場所と時を選ばず、情報の共有化がすすみ、コミュニケーションがより積極的に展開できることを実感しております。

静岡市HP「たべしずねっと」の更新情報が、随時、私のスマートフォンに配信されてきたら、静岡市が開催する食の安全・安心に関わるリスクコミュニケーション関連のイベント開催情報を知ることができますし、イベントにより参加しやすくなるでしょう。こうした思いは、私だけではないと思います。

私は、イベント終了後、開催情報を知って、残念だったと思ったことは何回もありました。

とにかく忙しくみなさん動いていますので、HPに自ら定期的にアクセスする人はおのずから限定されてしまうと思います。

ちょっとした仕掛けを用意することで、もっと、もっと、「たべしずネット」の掲載情報は、広く市民に伝わっていくと私は確信しております。

最後になりましたが、上記視点で、今回の意見交換会が新たな視点で、HP掲示板を活用しオープンな形式で実施されたことに関しては、極めて高く評価させていただきます。

◆◇大塚 晶美 委員

各部署の事業内容までよくわかりませんが、今回のアクションプランは短く分かりやすい言葉で書かれていて、相談者を受け入れようという係の方々の姿勢みたいなものが感じられて、目を通しやすくなりました。

私個人のことを申しますと、ネット上での交換会とかがなければ自分の趣味以外でホームページを開くこともあまりなかったのですが、「たべしずねっと」の内容を拝見させていただき、駆使されているのがよくわかりました。

どんな立場の方も大勢を巻き込んで、安心して食生活ができるよう施策を進めてほしいと期待します。

◆◇海野 雅人 委員

◆◇深沢 利司 委員

① P11～12

健康食品の買い上げ検査で9件実施されていますが、違反事例はありますか。

② P12

容器包装に有害物質が含有されていないかどうかの検査で、「市内に流通する「いわゆる健康食品が…」となっていますが、主旨と合っていません。記載ミスでしょうか。

③ P17

食品表示の違反は多いのでしょうか。よくある事例を教えてください。

◆◇市川 陽子 委員

10月の「たべしずねっと」上の質疑応答（他の委員のコメントも含めて）で、ほとんどの疑問・確認事項は解決しましたので、新たな質問はそれほどありません。

P20「5 食の安全に関する教育・啓発を推進します」の「食育推進店マップ作成」について教えてください。食育推進店に採択する基準は何ですか。また、現在どのくらいが加盟していますか。マップ活用のターゲットは誰でしょうか。

食の安全に関する情報源として、情報内容の新しさと正確さから「たべしずねっと」はたいへん有効だと考えます。市民をこのサイトにどれだけスムーズに誘導するかがポイントではないでしょうか。画面が（色彩を含めて）やや込み入った印象がありますので、見やすさにさらなる気配りをお願いしたいところです。

◆◇三輪 憲永 委員

平成23年度第2回静岡市食の安全・安心意見交換会の連絡をいただきましたが、開催当日は本学で欠席できない会議があり、意見交換会に参加できません。欠席させていただきます。

「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成24年度～平成26年度（案）」を拝見させていただきました。各委員の意見を参考に丁寧にまとめられていると思います。各事業には継続性が求められるとともに、新たな問題に対して迅速に対応する必要があり、プランの策定には困難があったものと推察いたします。事務局の努力に感謝いたします。

プランはよくまとめられており、特に意見はありませんが、基準値（平成22年度）と目標値（平成26年度）の記載について確認させてください。平成22年度を基準に目標値（件数）を記載しています。この方法では、基準年（平成22年）に対して継続あるいは新たに開始した事業に関しては確認できるのですが、廃止した事業に関しては確認できません。平成24年～26年のアクションプランということなので、廃止した事業は必要ないのかもしれませんが、基準年（平成22年）との比較という意味では廃止した事業も確認できた方がいいのかもしれませんが。ほとんどの事業は継続されているのですが、いくつか新規事業もあるようです。当然廃止した事業もあると思います。事業を行ううえでは、優先順位を考慮して事業を廃止することも重要なことだと思います。廃止した事業についても確認できるようにしていただけるとありがたいです。

廃止した事業については確認できればいいので、アクションプランに載せなくても別紙で一覧表にいただいてもかまいません。よろしくご検討ください。

◆◇海野 俊也 委員

I－1 生産段階における支援や助言を行います

個別農家を対象にしていると思われますが、ここにきて農業への企業参入が拡大しています。市内でもビルメンテナンス会社が耕作放棄地を使い離職者を雇用して露地野菜などを栽培しているといいます。鈴与やI A Iなども取り組み始めたと聞きました。雇用創出のほか国内農業を強くするためにも、さらに拡大が期待されます。農業参入を目指す市内企業への支援もお願いしたいと思います。

I－3 流通・販売段階における監視指導

重要です。ただ、加工食品やいわゆる健康食品、容器包装などについては各自治体がバラバラに監視・指導するよりも厚労省（あるいは出先機関）などと連携して系統立って実施の方が効率的と思われますが、そうなっているのですか。

II－5 食の安全に関する教育・啓発について

学校などと連携した活動は有意義と思われます。ただし、ここでは正確な知識の普及をお願いしたい。

福島第1原発事故に伴う放射性物質の食品への影響は、今後も出てくる可能性があります。放射性セシウムを規制する厚労省の新たな基準値（4月から運用予定。食品1^キ当たり100ベクレル、飲料水10ベクレル、牛乳50ベクレル）は、現行の暫定規制値に比べ大幅に厳しく、国際的に見ても厳格な数値とされています。これを上回った食品などは出荷できません。国内の各業界は懸命にこれを守るとされます。

ですが、静岡のお茶やシイタケについては、ことしのシーズンも厳しい風評被害に晒される可能性が強いとされています。個々の消費者の購入判断はもちろん自由ですが、少なくとも教育・啓発の場では新基準値の科学的根拠について正確に伝えてもらいたいと思います。放射性物資に限らず、不必要に懸念をあおるような教育も避けるべきと考えます。

農業体験については前回も申し上げましたが、市民農園講座など子どもばかりではなく、週末農業を楽しむ人を増やすような仕組みづくりをしてもらいたい。地産地消の価値、農業の尊さが黙っていても伝わります。